

3つのポリシー

医療科学部

〔ディプロマポリシー〕

医療科学部のディプロマポリシーは、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリーで構成されます。学位授与の規程は、2学科が定める所定の単位を修得し、学士力、専門職能を身に付け、専門的職業人としての使命感や責任感が持てる者であることが重要となります。さらに、多世代にわたる対人関係力を身に付け、社会の一員として適切な行動ができている者に学位を授与します。

〔カリキュラムポリシー〕

本学部は、建学の精神であり学園訓である「親切」を根幹としており、教育課程では、「個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った力強い職能人を育成する」ことを目的としています。これを達成するため、第一に、学士力向上を目標として教養科目、外国語科目などを、健康科学部・生活環境学部・児童教育学部と可能な限り共通科目として設け、幅広い視野で物事を捉えることができる豊かな人間性を育成します。第二に、リハビリテーションの専門的職業人として、多職種協働の理解を深め、さらにチーム医療の実践力を高めるために、健康科学部と医療科学部間及び、医療科学部2学科間において学部学科間共通科目を設けます。第三に、専門的知識と技術を幅広く身に付けるため、学年進行に合わせて専門基礎分野科目と2学科それぞれの専門科目を多く設置して、知識や技術を結び付けながら学修することが可能となるように、体系的に教育課程を編成します。

〔アドミッションポリシー〕

本学は、長年にわたり学園訓「親切」を根幹として、個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に付け、真の男女平等の実現を目指し、よき家庭人であり力強い職能人の育成を教育目的としてきています。これらの教育目的を達成するため、医療科学部は、保健・医療・福祉分野において、地域住民の生命と健康を守り、かつ、生涯にわたって主体的に自己研鑽できる理学療法士と作業療法士を育成します。両学科とも、学科のもつ専門的職業人として社会貢献をしたいと願う人材を求めています。

理学療法学科

〔ディプロマポリシー〕

理学療法学科では、学科の教育課程に定める単位を修め、理学療法の専門知識、技術を修得し、科学的根拠に基づく治療のできる理学療法士として、健康増進、障害の予防に貢献できる能力を備えた以下の学生に卒業を認定し、学士（理学療法学）の学位を授与します。その到達目標を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリーで示します。

1) 「知識・技能」

- ・科学的根拠に基づく医学的専門知識を有し、多様な病態やニーズのある対象者に向けた、健康増進、障害の予防に対する理学療法を实践できること。

2) 「思考・判断・表現」

- ・高い倫理観と教養をもち、親切、優しさを持つ豊かな人間性を有していること。

3) 「主体性・多様性・協働性」

- ・多様化する社会に貢献できるよう、常に自己を省み主体的に自己研鑽できること。
- ・保健医療福祉のシステムの中で、他の職種と連携を図ることができるコミュニケーションスキルや協調性を有していること。

〔カリキュラムポリシー〕

1 教育課程の編成目標

ディプロマポリシーの達成に向け、幅広い視野で物事を捉え、高い倫理観、豊かな人間性を備えた保健医療福祉分野の専門職としての素養を磨き、併せて、保健医療福祉に関する十分な専門知識と技術を身に付け、多職種とも連携でき、対象者の障害予防及び健康増進に貢献できる理学療法士としての能力を育成します。

- 1) 理学療法士として必要な高い倫理観と教養、豊かな人間性を養う科目を開講します。
- 2) 科学的根拠に基づき、対象となる人々の障害予防と障害の改善を含めた健康増進に貢献できる、理学療法士に必要な専門的知識と技術、幅広い視野から物事を捉え実践できる能力を養う科目と専門性を学修できる科目を開講します。
- 3) 多様化する病態や対象者のニーズに貢献できるようになるためには、主体性を発揮した学びが必須であり、理学療法についての理論と実践及び学修の統合を図る演習・実習系科目、及び研究関連の専門科目においてアクティブラーニングを取り入れて開講します。
- 4) 他の職種と円滑な連携を図ったチーム医療に貢献できるように、コミュニケーションスキルと協調性を身に付けることは重要であるため、学生間の協力関係のもとで展開される演習系科目、実技系科目を開講します。

2 教育課程の編成と特色

1) セメスター制と GPA

セメスター制を導入し、一年を前期と後期に分け、半期ごとに完結する授業を行います。これにより学生は半期ごとに単位履修状況を見直すことが可能になります。また、GPA (Grade Point Average) を活用して、教員による適切な学修支援を実施します。

2) 全学共通科目の設定と充実

大学での学びの導入として初年次セミナーを1年次に配置して履修し、大学生活における学修の目標を見定め、専門科目の履修目的の確認やモチベーションの高揚を目指します。また、「学士力」育成を目指し、人間形成、一般教育、外国語、情報・表現などのカテゴリーに分けた全学共通科目を可能な限り選択できるよう設置します。

3) 学部学科間共通科目の設定

健康栄養学科と看護学科を有する健康科学部と連携し、多職種連携を見据えた理学療法士・作業療法士の養成教育が可能となる科目を配置します。また、理学療法学科と作業療法学科間では、健康増進とリハビリテーションに関連する科目を開講します。

4) 専門科目群

理学療法士養成課程として、知識と技術の一体的な専門教育実践を可能にするために以下の専門科目カテゴリーに区分するとともに、必修・選択の割合を適切に配置して系統的に編成します。

(1) 「専門基礎分野科目」(必修 26 科目)

内訳：人体の構造と機能及び心身の発達(必修 10 科目)・疾病と障害の成り立ちと回復促進(必修 11 科目)・保健医療福祉とリハビリテーション(必修 5 科目)

(2) 「理学療法専門分野科目」(必修 36 科目、選択 4 科目)

内訳：基礎理学療法学(必修 5 科目)・理学療法管理学(必修 1 科目)・理学療法評価学(必修 7 科目)・理学療法治療学(必修 16 科目、選択 4 科目)・地域理学療法学(必修 2 科目)・臨床実習(必修 5 科目)

5) 学修成果測定

- (1) ルーブリックによる学修成果の可視化を図ります。
- (2) 学修(e)ポートフォリオによる学修成果の蓄積を行います。
- (3) 年次ごとに、必修科目の修得等の進級基準を設けます。
- (4) 理学療法士が必要とする学修成果や学修達成度、専門知識・技能に関する「卒業研究(発表・論文)」の講評を行います。

6) 学習環境

- (1) 理学療法士の国家試験受験資格取得に必要な科目配置を行います。
- (2) クラス担任を中心に学科教員は授業担当者と緊密な連絡と情報交換により、きめ細かな指導を行います。
- (3) 授業以外にも理学療法技術のきめ細やかな指導を行います。

[アドミッションポリシー]

1 教育目的・人材育成目標

高い倫理観と教養を身に付けた力強い職能人の理学療法士として「心身機能・身体構造、活動と参加」の障害や背景因子を含む生活障害を有している対象者に対し、科学的根拠に基づく理学療法を用いて、障害予防と障害の改善を含む健康増進を目指した支援を実践し、社会に貢献できる人材の育成を目的としています。

2 求める学生像

- 1) 対象者から信頼される共感的な態度、誠実さ、ともに歩んでいくという思いを持つ者
 - 2) 健康及び障害の予防の大切さに興味を持ち、学びを深めたいと思う者
 - 3) 保健医療福祉のチームの一員として、協調性を持ち責任ある行動が取れる者
 - 4) 真実を追究する探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢のある者
- 5) 高校までの学びの基本的知識を備え、理学療法の特門性を追求する意欲のある者